

令和3年度 台東区立松葉小学校授業改善推進プラン

【国語科】

1 児童の実態及び学習上の課題

【知識及び技能】

- 学年差や個人差はあるが、課題に対して真面目に取り組む児童が多く、漢字の読み書きや語彙の知識量における習熟は概ね良好である。
- 自ら目標を立てて練習したり、課題を見つけて活動したりする経験が少なく、知識として身に付いている語彙や語句を話や文章の中で使いこなす技能を向上させる必要がある。

【思考力、判断力、表現力等】

- 話し合い活動や交流活動に制限があるため、発表する力や話し合う力が全体的下がっている。特に聞き手を意識した話し方や計画的に話し合いを進める力が不十分である。
- 経験したことや自分の思いを書いたり、文例を参考にして書いたりすることを得意とする児童は多いが、自分の思いや考えが明確になるように構成を考えたり、相手に伝わるための書き表し方を工夫したりする力が不十分である。
- 文学的文章における心情の読み取りは概ね良好であるが、説明的な文章の内容や形式に着目して読む力が不十分である。

【学びに向かう力、人間性等】

- 発表など公の場や目上の人に対する場面では、状況に合わせた言葉遣いをすることができるが、友達に対してはふさわしくない言葉を選んでしまう場面が見られる。多様な場面において、目的や状況に合わせた言葉を使い分けることができる言語感覚を養う必要性がある。



2 授業改善に向けての具体的な方策

【知識・技能】

- さわやかタイム(朝、昼の短時間学習)を活用し、漢字や言葉を調べる学習を継続的に行う。また、一人1台端末を用いたeライブラリなどで既習事項の漢字・言語・文法の定着や習熟をさらに図る。
- 単元の文章全体を教室掲示し、文章の中の言葉を根拠として正しく読み取る力を付ける。
- 文章を読み返す習慣を付け、間違いを正したり、語と語や文と文との続き方を確かめたりする力を育てる。

【思考・判断・表現】

- 文章を推敲する時間を確保し、相手や目的を意識した表現になっているか確かめさせる。
- 全ての児童が自信をもって発表できることを目指し、低学年から手本となる話型を教室に常時掲示するなど学習環境を整える。一人1台端末等を活用し、話し合いの活動を増やす。

【主体的に学習に取り組む態度】

- 外部講師による読書活動や書写指導を継続するとともに、豊かな言語環境や伝統的な言語文化に触れる機会を確保し、国語に対する関心を高め、より向上しようとする態度に繋げていく。
- 自分の思いや考えを伝えたり、学習したことをまとめて説明したりする言語活動を意図的に取り入れることで、自分の考えを広げたり友達考えを共有したりできるようにする。

【社会科】

1 児童の実態及び学習上の課題

【知識及び技能】

- 身近な生活の様子について興味は高いが、学年が上がるにつれて、知識量での差が広がっている。
- 生活経験の差や校外での学習の減少などで、知識面の個人差が大きいと具体的なイメージを共有しにくい。

【思考力、判断力、表現力等】

- 資料に興味をもって、考えようとする児童が多い。資料の読み取りについては、キーワードをつかむことはできるが、それを使ったまとめの文章表現が難しい。
- 資料を活用したり考察したりする力は十分でない。資料をもとに考えたり、友達の考えを共有したりしながらまとめることに課題が見られる。
- 複数の資料から、必要な情報を選択し読み取ることに課題がある。

【学びに向かう力、人間性等】

- 既習の学習から興味・関心を高め、歴史の本等を好んで読む児童が見られる。
- 学習内容が広がる地理的・歴史的など社会的な背景への理解については、学習したことを身近に捉えられず、苦手意識が強くなることがある。学習の意味付けや自分の生活にどのように生かすのかを考える機会に課題があると考える。



2 授業改善に向けての具体的な方策

【知識・技能】

- 下学年で学習した基本的な事項や資料を必要に応じて掲示するなど学習環境を整える。
- 映像教材やICT教材等を活用して、児童が興味関心をもつ資料やその提示の仕方を工夫する。
- 一人1台のタブレット端末を使用したeライブラリを活用し、単元の終わり、学期の終わり、家庭学習等で知識の定着を図る。

【思考・判断・表現】

- 単元ごとに、児童の気付きから学習問題を作り、問題解決していくようにする。
- つかむ→調べる→広げる、の学習過程を大切に、児童の思考を明確にさせる。
- 映像資料等を活用し、日頃から複数の資料を読み取る活動を設ける。
- 一人1台端末を使用して、自分の意見やまとめを記録し、共有や相互評価をすることで、多様な意見を認めたり、考えを導き出したりすることへの意欲を高める。

【主体的に学習に取り組む態度】

- 学習問題を立て、自分たちで資料をもとに考えをまとめる時間を設定する。進んで資料を読み取り、話し合いを通して理解が深められるようにする。
- 実物や映像などの掲示教材や視聴覚教材を授業の導入や振り返りなどに活用する。

【算数科】

1 児童の実態及び学習上の課題

【知識及び技能】

- 「知識・理解」の観点では、ほとんどの単元末テストで平均正答率9割を上回っている。
- レディネステストの結果から、学年が進むごとに既習事項の定着が十分でない児童が見られる。
- 途中式や筆算の手順を省略したことによる誤答が見られる。

【思考力、判断力、表現力等】

- 自分なりの解き方を考えたり、友達の考えを自分の考えと比べながら聞いたりすることができる児童が増加している。
- 計算の仕方を図や線分図、言葉などで進んで発表しようとしている。
- 「思考・判断・表現」の観点では、単元末テストで平均正答率が9割を下回る単元がある。
- 文章問題において、演算決定に課題のある児童が見られる。
- 図形の学習において、既習事項が定着していないことによって自力解決が難しい児童が見られる。

【学びに向かう力、人間性等】

- 算数の学習に対して意欲的な児童が多く、新しい単元の学習に関心をもって取り組む児童が多い。
- ①筆算を小さい文字で書く②繰り上がり、繰り下りの数を筆算に書かない③分数の計算の途中式を省くなどの学習習慣が原因となる誤答が見られる。



2 授業改善に向けての具体的な方策

【知識・技能】

- 授業の導入時、電子黒板等を活用し前時までの振り返りを行う。
- さわやかタイム(朝、昼の短時間学習)において、タブレット端末の e ライブラリを活用し、前学年までの既習事項を学習する時間を設定し、基礎的基本的な内容の定着を図る。
- ①繰り上がりや繰り下りした数を筆算に記入する②筆算や途中式を丁寧に書く③検算をして答えの確かめをする、などについて繰り返し指導し、習慣付けをしていく。

【思考・判断・表現】

- 課題に対して、①答えの予想をする。②図や数直線を用いて考える。③簡単な数字に置き換えて考える。などについて繰り返し指導し、正しい立式ができるようにする。
- 児童が主体的に取り組む問題解決学習や友達の考えを共有する話合いの時間を設定する。
- 一人1台端末、電子黒板を活用し、前時までの板書やノートを記録しておき、既習事項の振り返りや友達の考えの共有等に生かす。

【主体的に学習に取り組む態度】

- 習熟度別授業により、個々の発表の機会を増やし、分からないことをそのままにせず、質問して解決しようとする態度を育てる。
- 学ぶ楽しさを実感させ、学習意欲の向上のために具体物を操作したり、デジタル教材を活用したりするなどの数学的活動を取り入れる。

【理科】

1 児童の実態及び学習上の課題

<p>【知識及び技能】</p> <ul style="list-style-type: none">○進んで実験や観察に取り組み、その中での気付きから、学習内容の理解を深めている児童が多い。○観察において、重要な事柄を正しく捉えられず、正確に記録することを苦手とする児童がいる。○実験器具の使用法など正しく実験に取り組むことができない場合がある。○過去に学習した科学的な知識の定着が不十分で、単元の振り返りや、下学年の学習内容の復習に取り組む際、忘れてしまっていることがある。生活体験や既習事項を確かめながら学習に取り組む必要がある。
<p>【思考力、判断力、表現力等】</p> <ul style="list-style-type: none">○事象との出会い→予想・仮説→実験・観察までの問題解決は柔軟に発想し意欲的に取り組む児童が多い。特に自分なりの視点や言葉で予想することができている。一方、結果からどのような事柄が言えるか表現することに消極的である。○知っている知識や初めて知ったことを確かめるためにどのような実験や観察をすればよいか考えたり進んで実証しようとしたりする意欲が低い。知識だけでなく、根拠が明確になるようなノート指導などの指導を考える。○既習事項と関連付けて考えることが苦手なため、問題解決型の授業プロセスを定着する必要がある。
<p>【学びに向かう力、人間性等】</p> <ul style="list-style-type: none">○科学的な事象に対する興味・関心が高い児童が多く、児童が進んで動植物の世話をしている。○身近な経験や初めて出会う事柄に対する素朴な疑問から予想し、意欲的に実験や観察に取り組む児童が多い。学習したことをどのように自分にどう生かしていくのかにつなげていく。



2 授業改善に向けての具体的な方策

<p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none">○単元の導入時には、下学年で学習したことを想起し振り返る時間を設けるとともに関連する資料や掲示物をいつでも見える場所に提示する。○実験や観察の方法における重要な事柄が目で見分かりやすくなるようなワークシートを使用したり、正しく記録できるようにノートの記入方法の統一を図ったりする。○一人1台タブレット端末を使用した e ライブラリを活用し、単元の終わり、学期の終わり、家庭学習等で知識の定着を図る。
<p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none">○問題→予想・仮説→実験・観察→結果→考察→結論(まとめ)の問題解決学習の流れを取り、児童の思考を明確にさせる。○予想や考察において十分に話し合い、考えを共有し、自身をもって取り組めるようにする。○一人1台端末を使用して自分の意見や結果の記録をし、共有や相互評価をすることで、多様な意見を認めたり、より妥当な考えを導き出したりすることへの意欲を高める。
<p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <ul style="list-style-type: none">○個で考える時間、少人数で考える時間、集団で考える時間を設け、多くの意見に触れる機会をつくる。○実物やそれに近い模型などの提示教材や写真や動画などの視聴教材を授業の導入や振り返りに活用することで学習意欲を高める。